

データで見た北多摩北部地域の現状

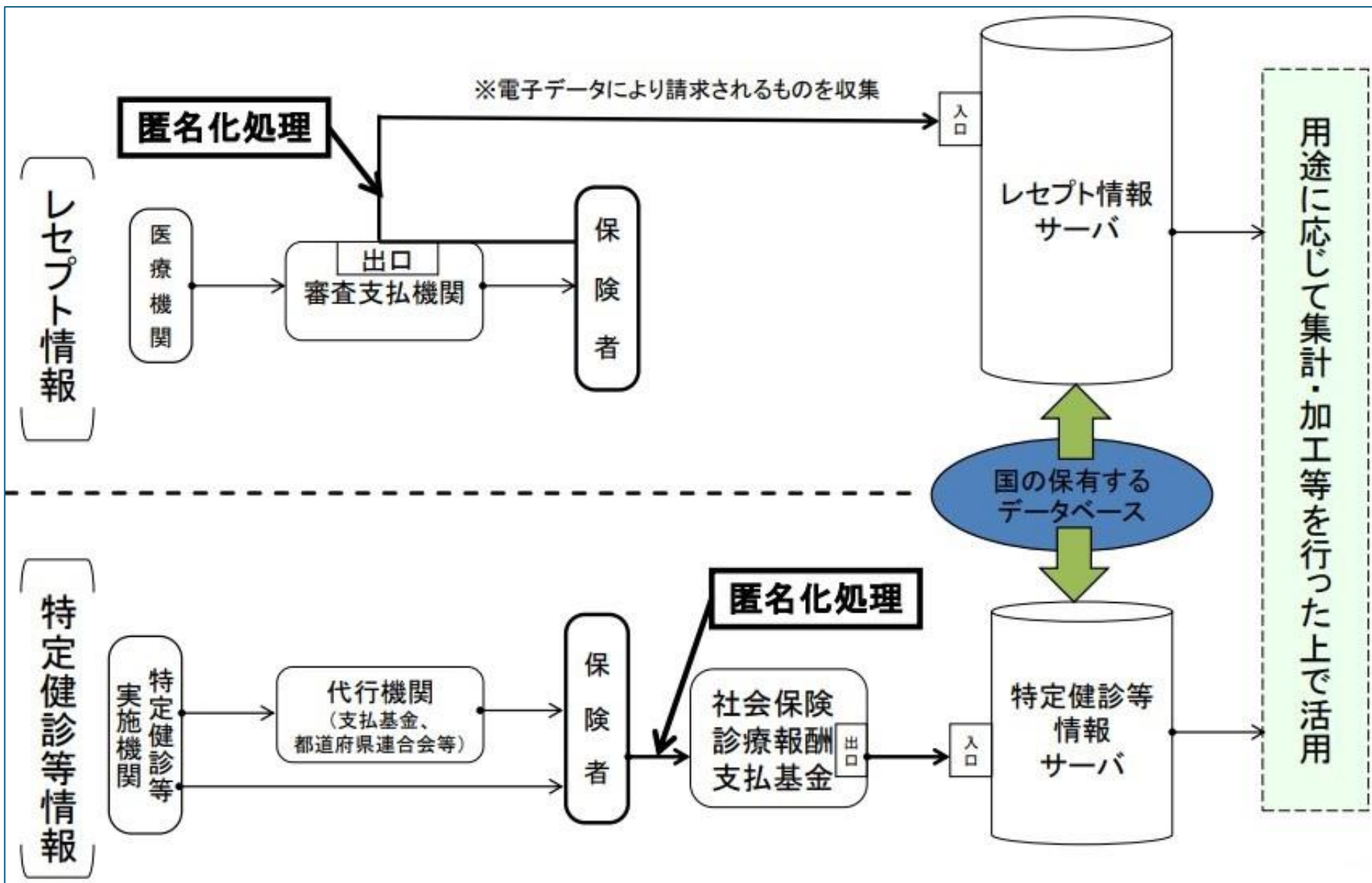
資料4-1

～NDBオープンデータ(特定健診分)より～

匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）とは

- 匿名医療保険等関連情報データベース（National Database of Health Insurance Claims。以下「NDB」という。）は、厚生労働省が高齢者の医療の確保に関する**法律に基づき**、医療費適正化計画の作成、実施及び評価のための調査や分析などに用いるデータベースとして、**レセプト情報や、特定健診情報等を収集・格納している。**
- NDBには保険診療にまつわる様々なデータが含まれており、**全数に近い割合で国民の医療動向を把握できる。**
- 第6回オープンデータ（レセプト情報：平成31年度分、特定健診情報：平成30年度分）より従来の都道府県別情報に加え、二次医療圏別の情報が厚生労働省のホームページ上で公表している。
＜都道府県・二次医療圏の分類＞
レセプト情報：医療機関の所在地別、**特定健診情報：受診者の住所地別**

●NDBデータの取得経路



本資料の内容

- 本資料では、厚生労働省がホームページ上で公表しているNDBオープンデータ（特定健診情報）等を利用し、北多摩北部地域に関する以下のデータを東京都全体と比較した。

①運動（1回30分・週2回・1年以上）	⑦収縮期血圧
②朝食を抜くことが週3回以上	⑧降圧剤の服用
③間食や甘い飲み物を毎日摂取	⑨HbA1c
④何でもかむことができる	⑩糖尿病治療薬の使用
⑤肥満（BMI）	<参考>脳血管疾患 年齢調整死亡率
⑥やせ（BMI）	<参考>65歳健康寿命A

- 特定健診^(注)の実施年度や項目別に受診者数変動しているが、本データは概ね以下の人数のデータの集計値となっている。

東京都：約280～350万人、北多摩北部地域：約15～18万人

（参考）40～74歳の人口 東京都：約640万人、北多摩北部圏域：約35万人

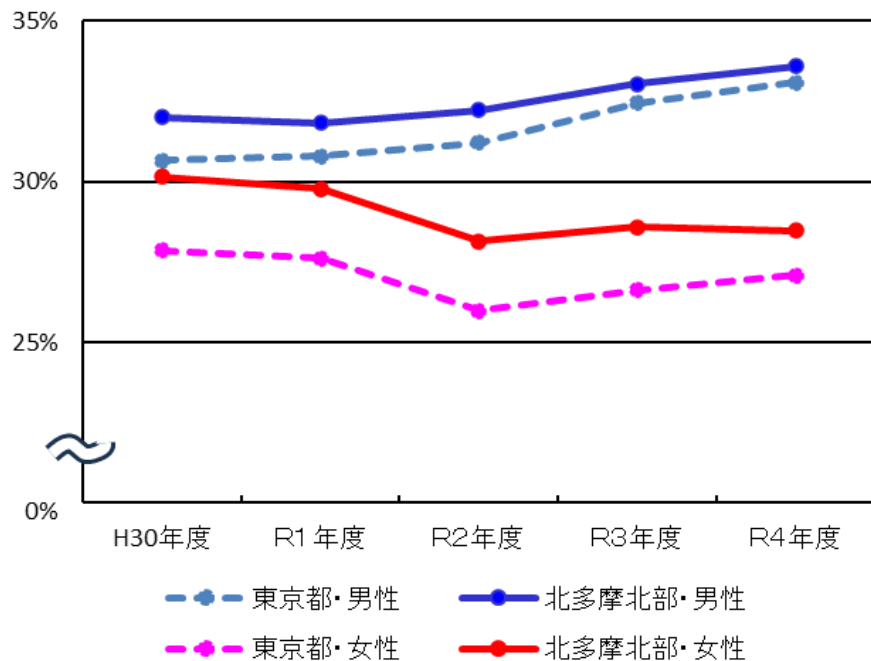
（注）特定健診：40歳以上75歳未満の被保険者・被扶養者を対象に、メタボリックシンドロームの予防と改善を目的に実施

運動をしている者の割合（40～74歳）

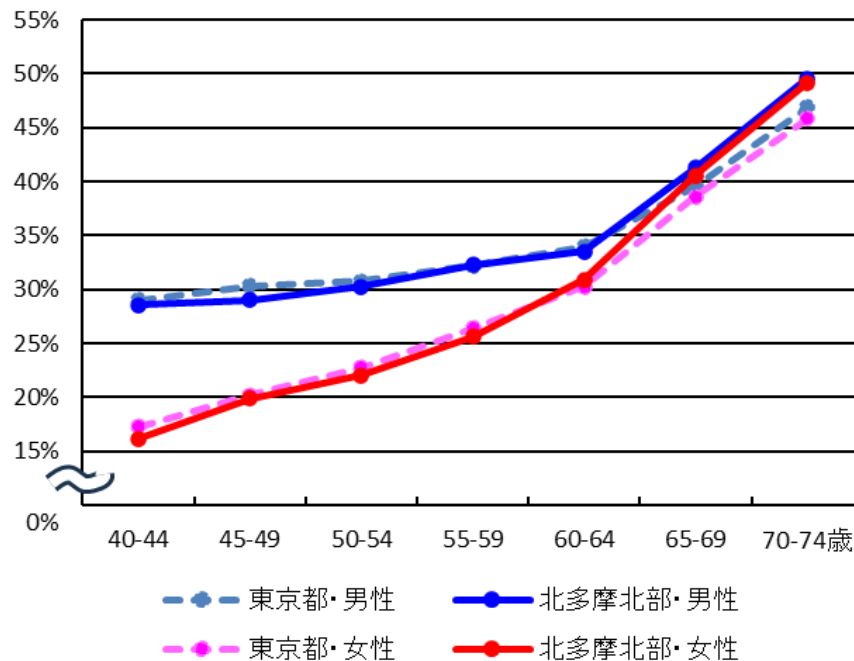
1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している者の割合は、男女とも東京都全体より高い数値で推移している。

一方、令和4年度の年代別の割合は、男女とも年齢が上がるにつれて増加している。60歳代以降、東京都全体より割合が高い。

年度別推移（H30-R4年度）



年代別の割合（令和4年度）

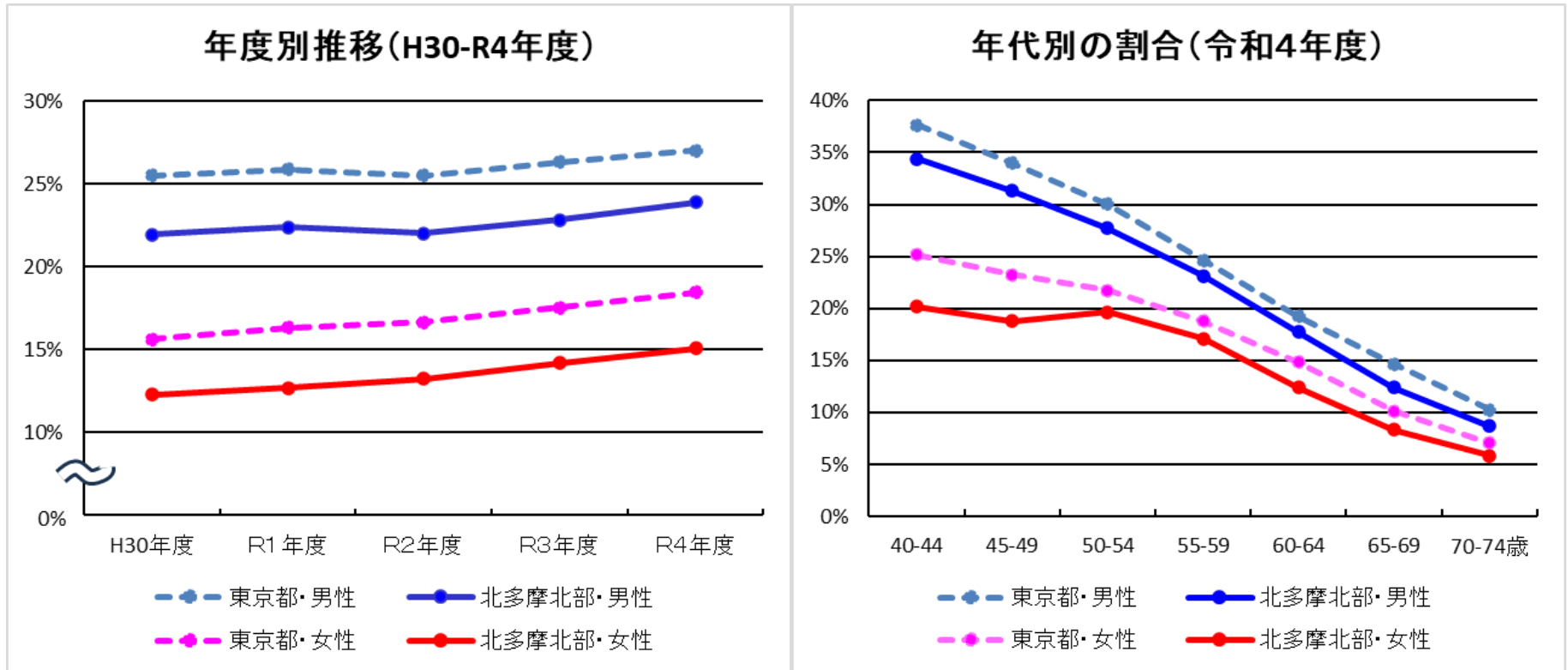


資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

朝食を抜くことが週に3回以上ある者の割合 (40～74歳)

朝食を抜くことが週に3回以上ある者の割合は男女とも増加傾向だが、東京都全体より低い。

また、年代別の割合では、若年者ほど朝食を抜く傾向がある。

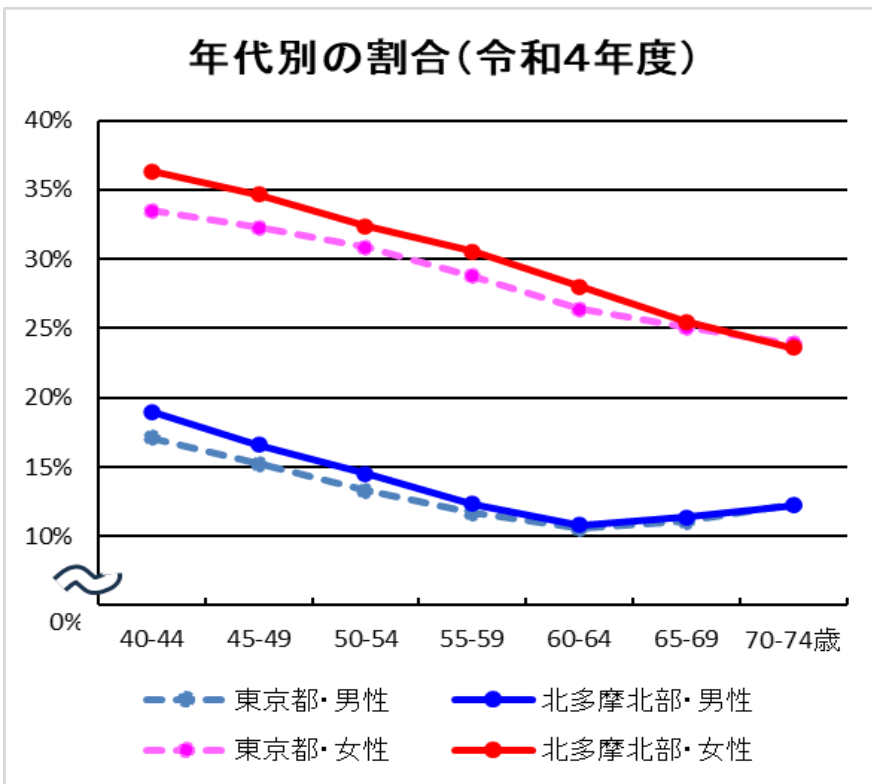
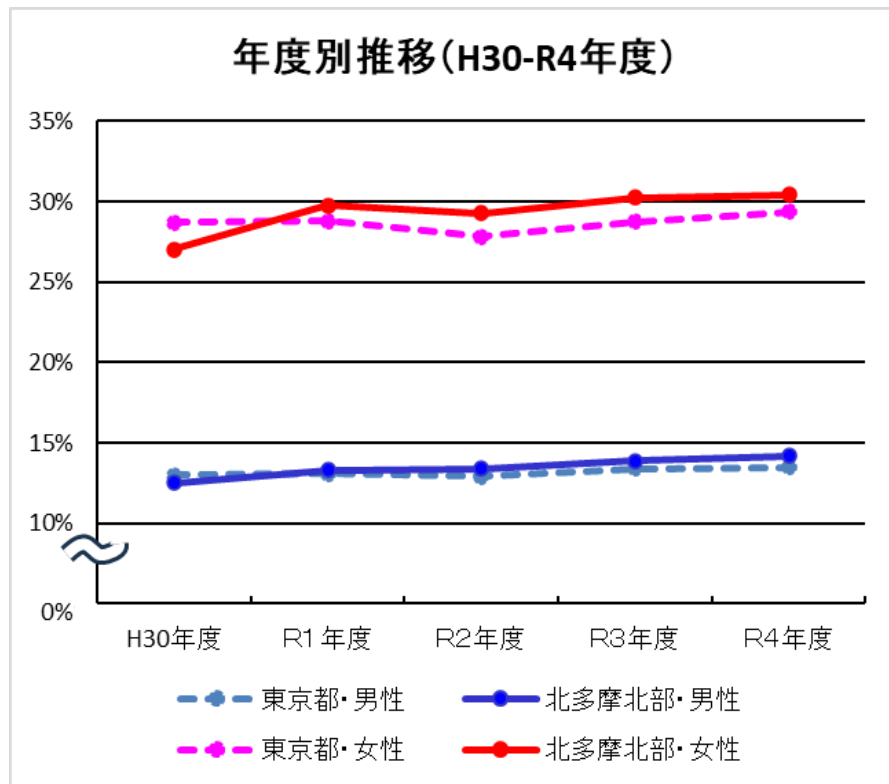


資料：「NDBオープンデータ・特定健診」(厚生労働省)

三食以外に間食や甘い飲み物を毎日摂取している者の割合（40～74歳）

朝昼夕の三食以外に間食や甘い飲み物を毎日摂取している者の割合は、男女ともわずかに増加している。また、女性は東京都全体より高い。

また、年代別の割合は、男性は60歳代前半までは減少し、その後は増加に転じる。一方、女性は年代とともに減少する。

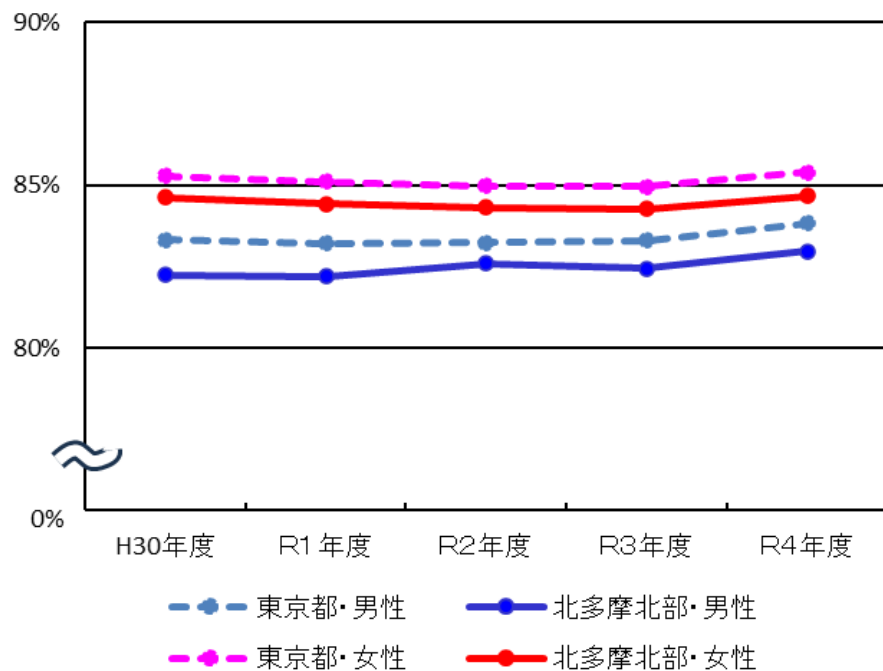


資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

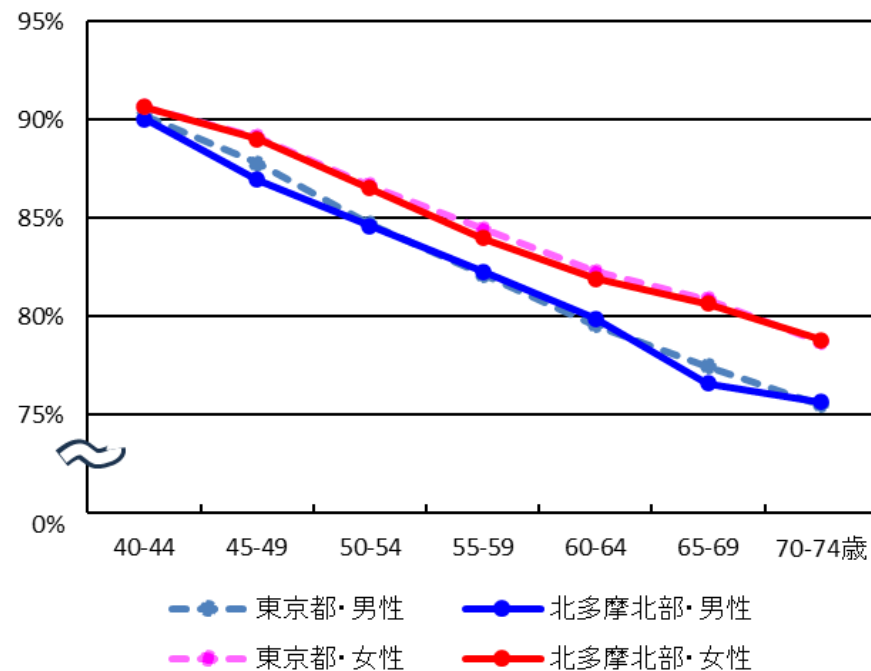
何でもかんで食べることができる者の割合 (40～74歳)

何でもかんで食べることができる者の割合は、男性はわずかに増加しているが、女性は横ばい。いずれも東京都全体より低い値で推移している。年代別の割合は東京都とほぼ同じで、年齢が上がるにつれ減少し、男性より女性の方が割合が高い。

年度別推移(H30-R4年度)



年代別の割合(令和4年度)



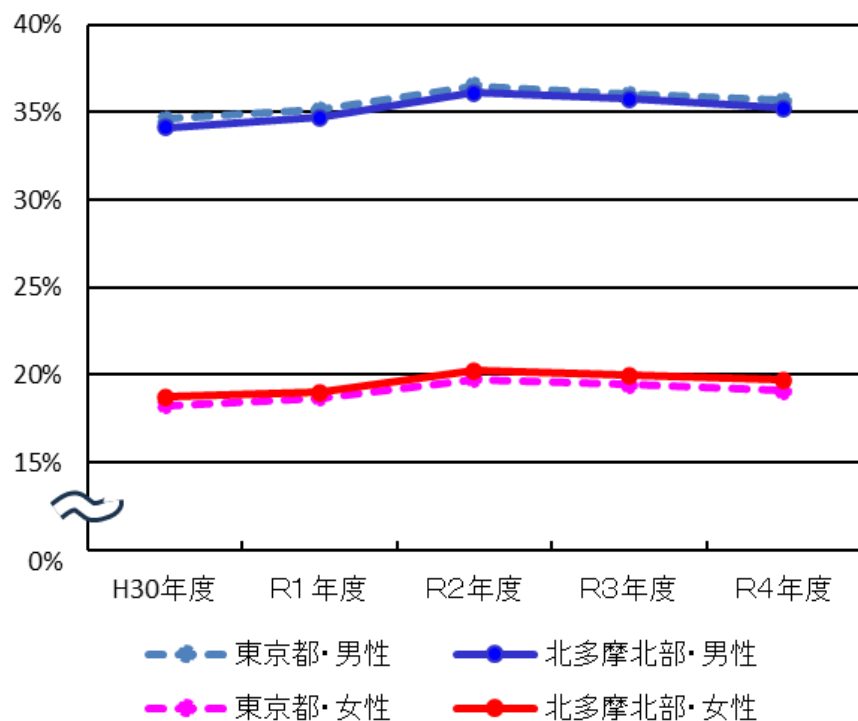
資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

肥満（BMI：25以上）（40～74歳）

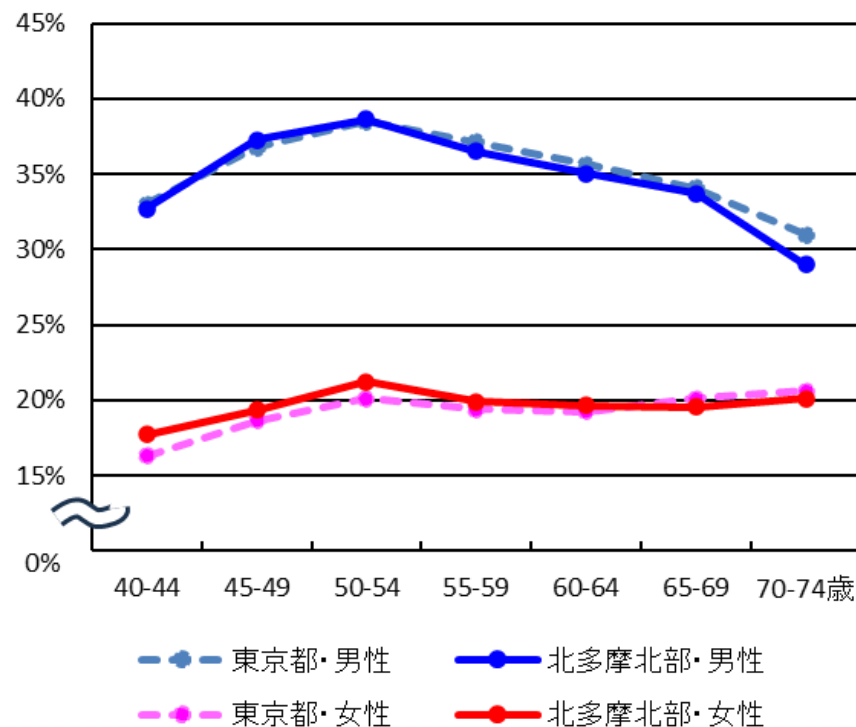
肥満（BMI：25以上）の割合は、令和2年度をピークに減少傾向で、男女とも東京都全体と差がなかった。

年代別の割合は、男女ともに50歳代前半までは割合が増加し、その後、男性は年代が上がるにつれて減少傾向、女性は横ばいである。

年度別推移（H30-R4年度）



年代別の割合（令和4年度）



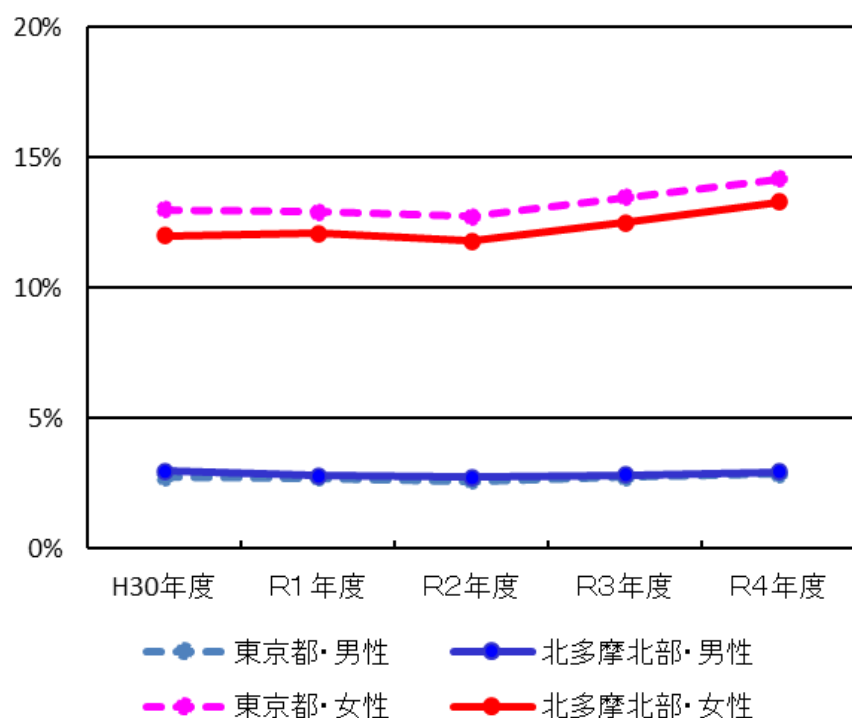
資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

やせ（BMI：18.5未満）（40～74歳）

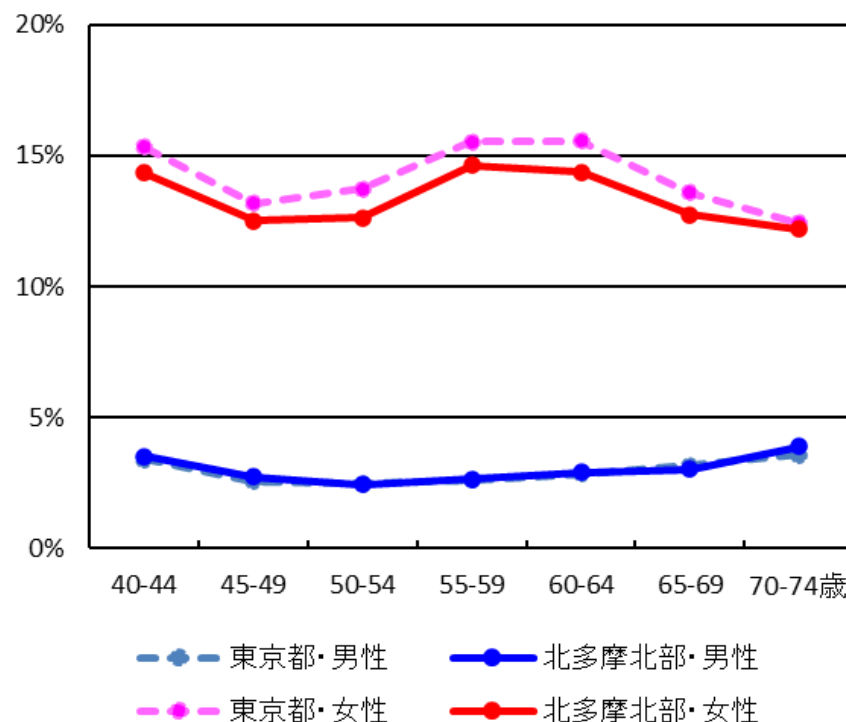
やせ（BMI18.5未満）の者の割合は、男性は横ばいで東京都全体とほぼ差がなく、女性は令和2年度から増加しており、東京都全体より低い。

年代別の割合は、男性はほぼ横ばいだが、女性は44歳以下及び55～64歳の割合が高い。

年度別推移(H30-R4年度)



年代別の割合(令和4年度)

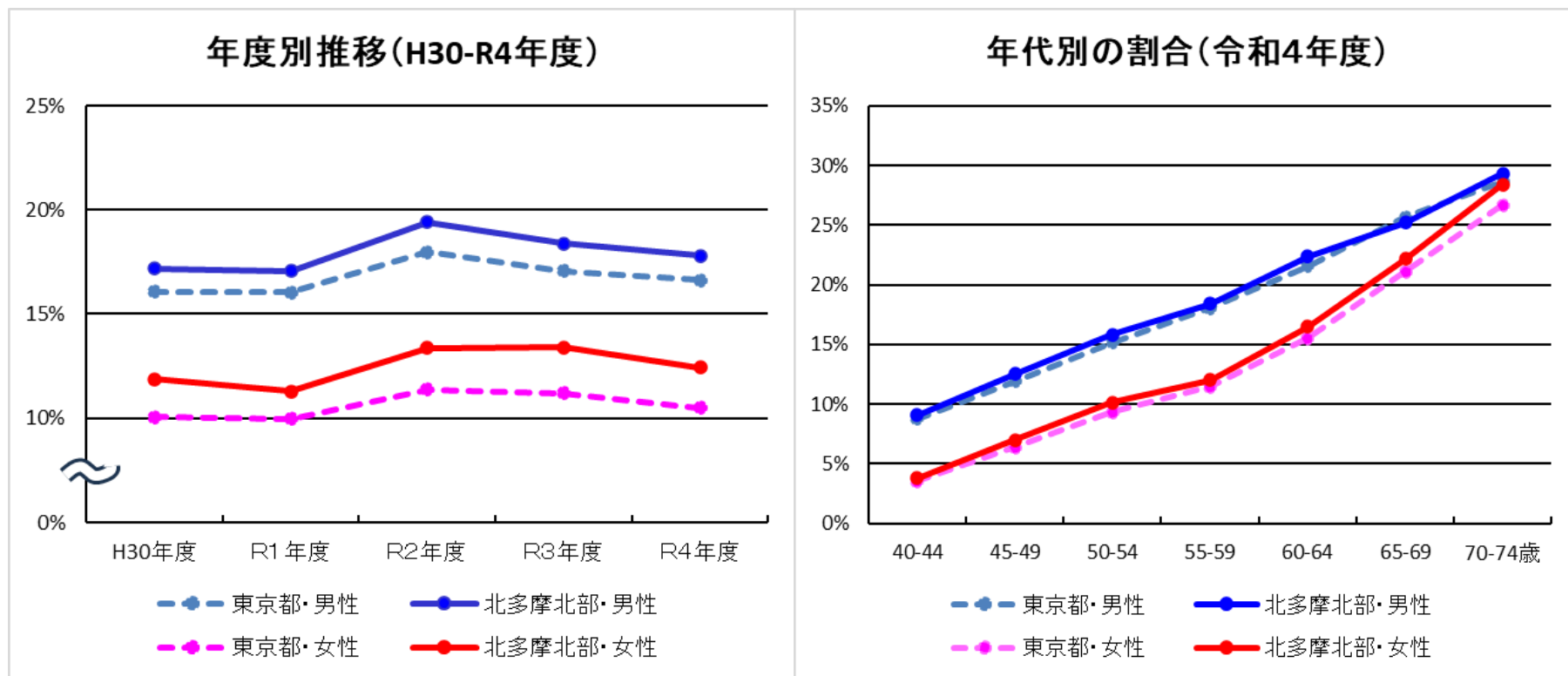


資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

収縮期血圧140mmHg以上（40～74歳）

収縮期血圧140mmHg以上の者の割合については、男性・女性のいずれも東京都全体より高い値で推移している。

年代別の割合は、男女とも年齢が上がるにつれて増加する。



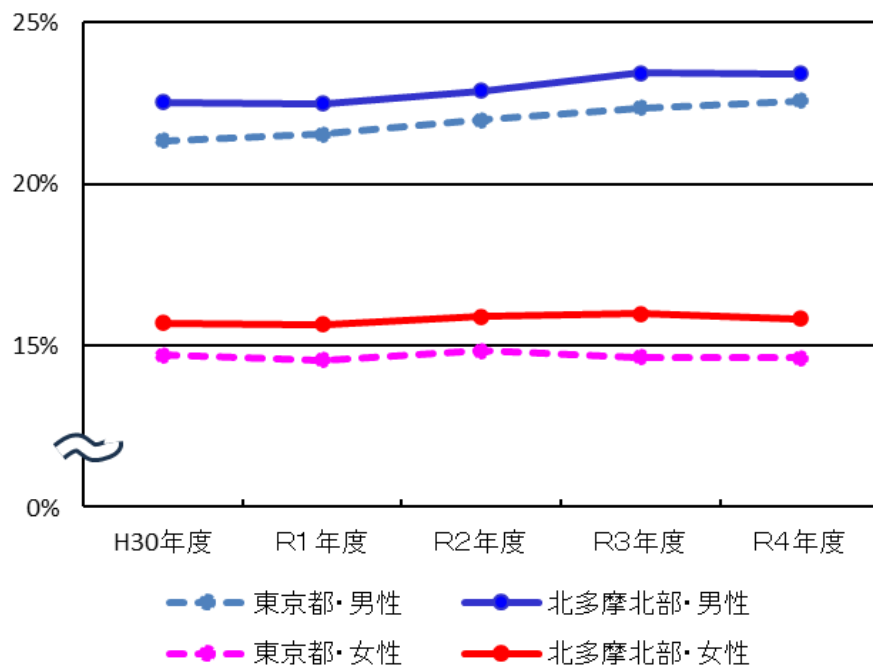
資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

降圧剤を服用している者の割合（40～74歳）

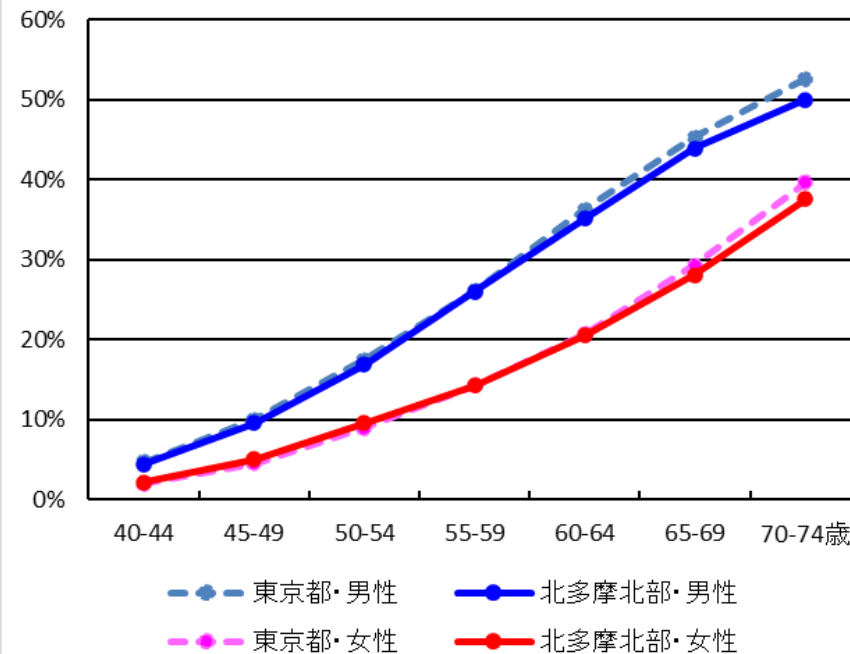
血圧を下げる薬を服用している者の割合は、男性は増加傾向、女性は横ばいで、いずれも東京都全体より割合が高い。

年代別の割合は、男女とも年齢が上がるにつれて増加する。

年度別推移(H30-R4年度)



年代別の割合(令和4年度)

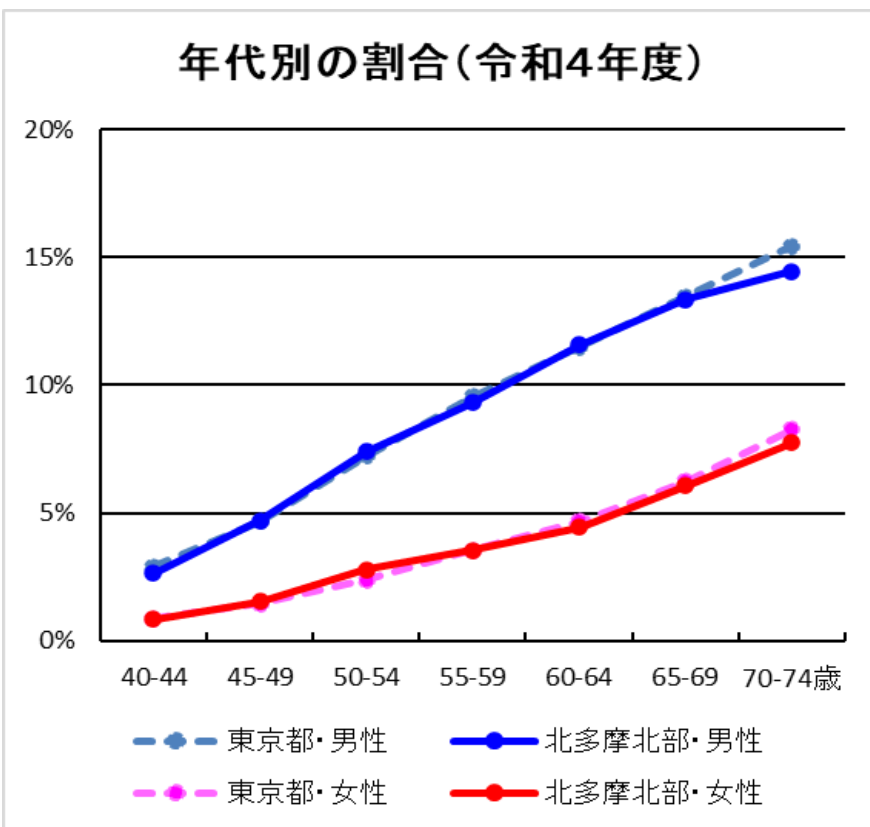
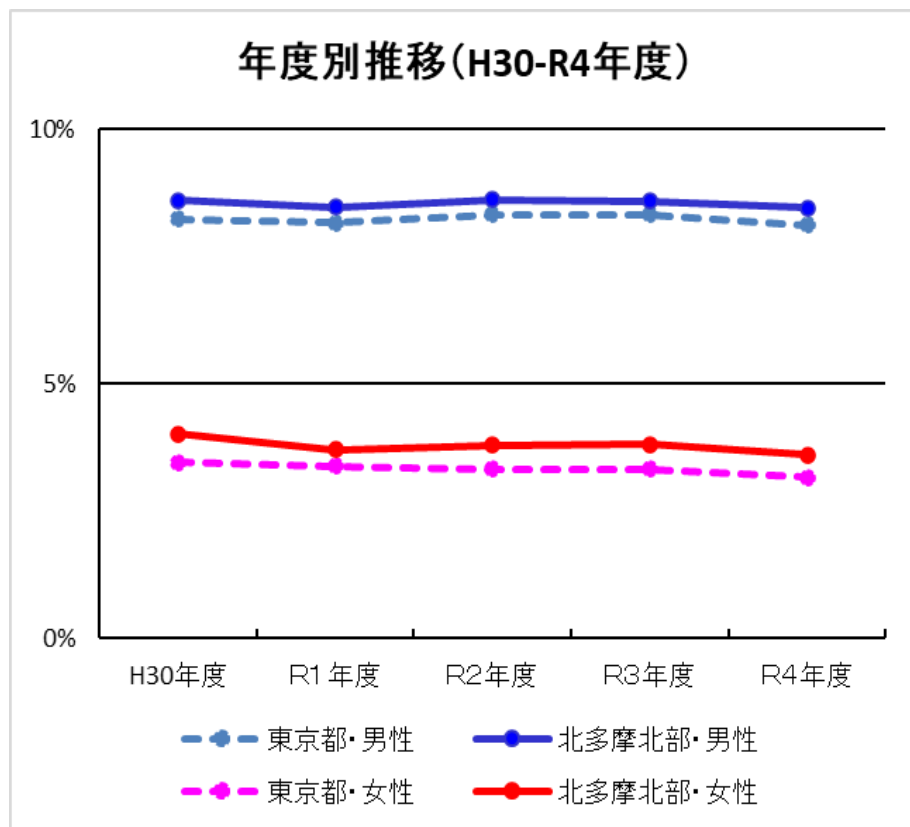


資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

HbA1c (NGSP) 6.5以上 (40~74歳)

糖尿病であることが強く疑われるHbA1c (ヘモグロビンエーワンシー) 6.5以上の者の割合は、男性・女性のいずれも東京都全体より高い値で推移している。

年代別の割合は、男女とも年齢が上がるにつれて増加する。



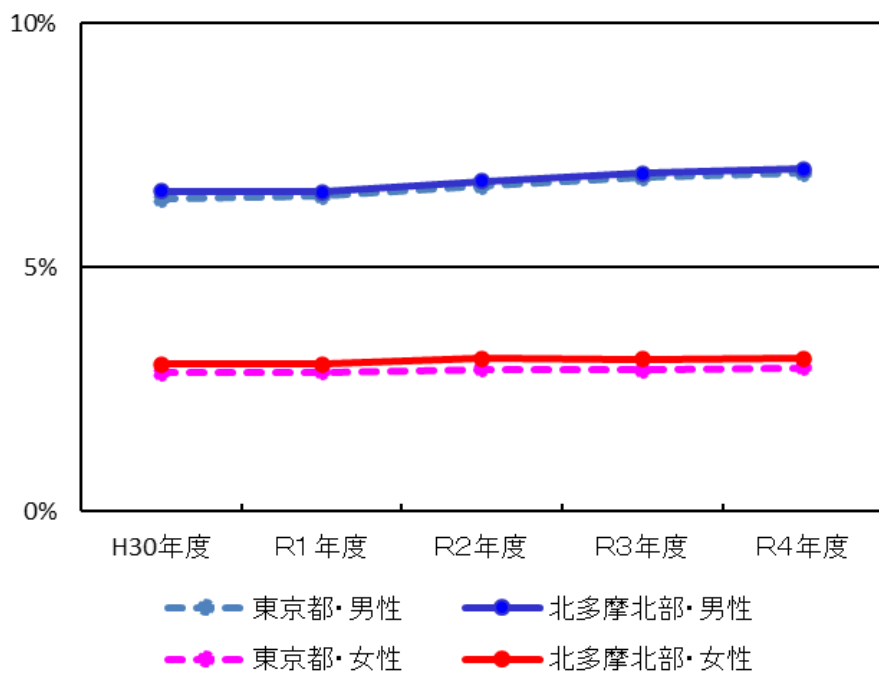
資料：「NDBオープンデータ・特定健診」(厚生労働省)

糖尿病治療薬を使用している者の割合（40～74歳）

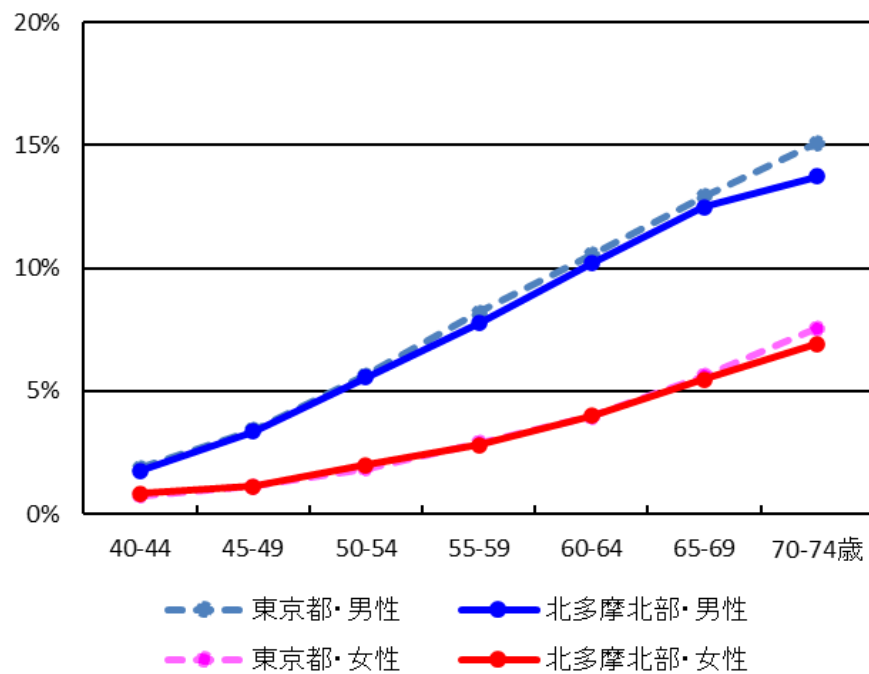
現在、血糖を下げる内服薬又はインスリン注射を使用している者の割合は、男女ともほぼ横ばいで、いずれも東京都全体とほぼ差がない。

年代別の割合は、男女とも年齢が上がるにつれて増加する。

年度別推移（H30-R4年度）



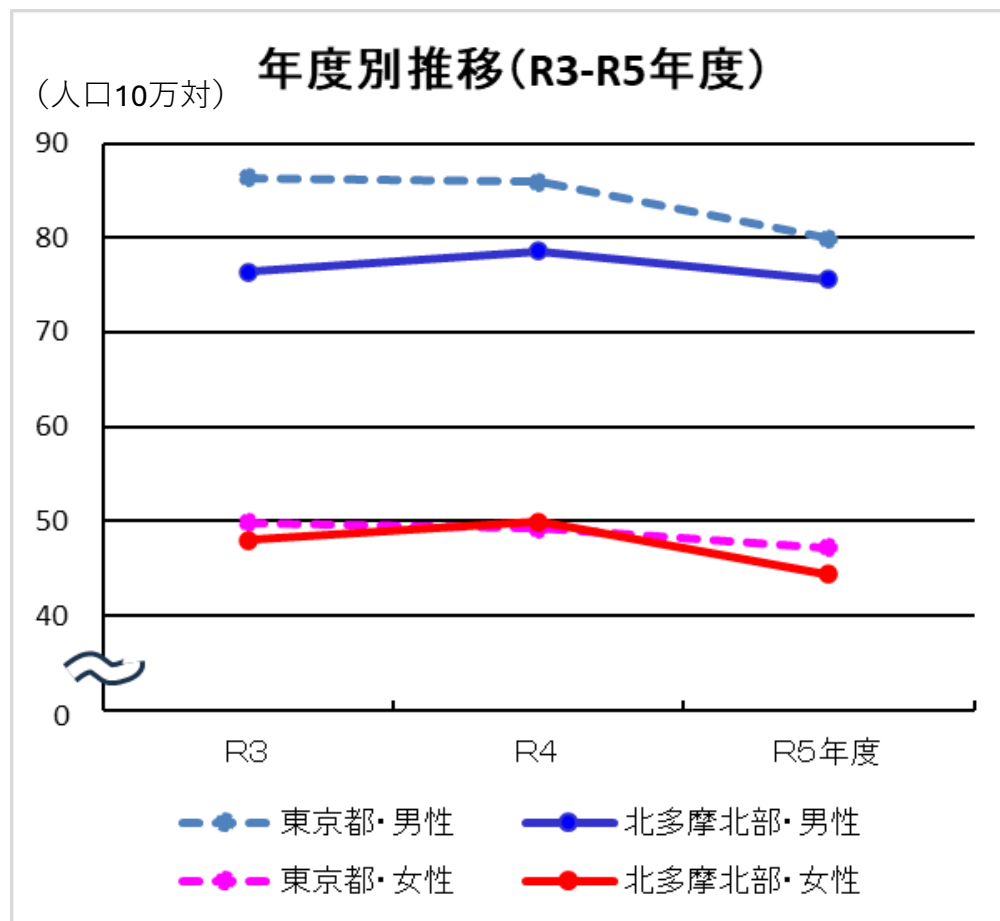
年代別の割合（令和4年度）



資料：「NDBオープンデータ・特定健診」（厚生労働省）

<参考> 脳血管疾患 年齢調整死亡率 (直接法)

脳卒中の年齢調整死亡率(注)は、男性は東京都全体より低く、脳卒中による死亡が少ないが、女性はほぼ差がない。

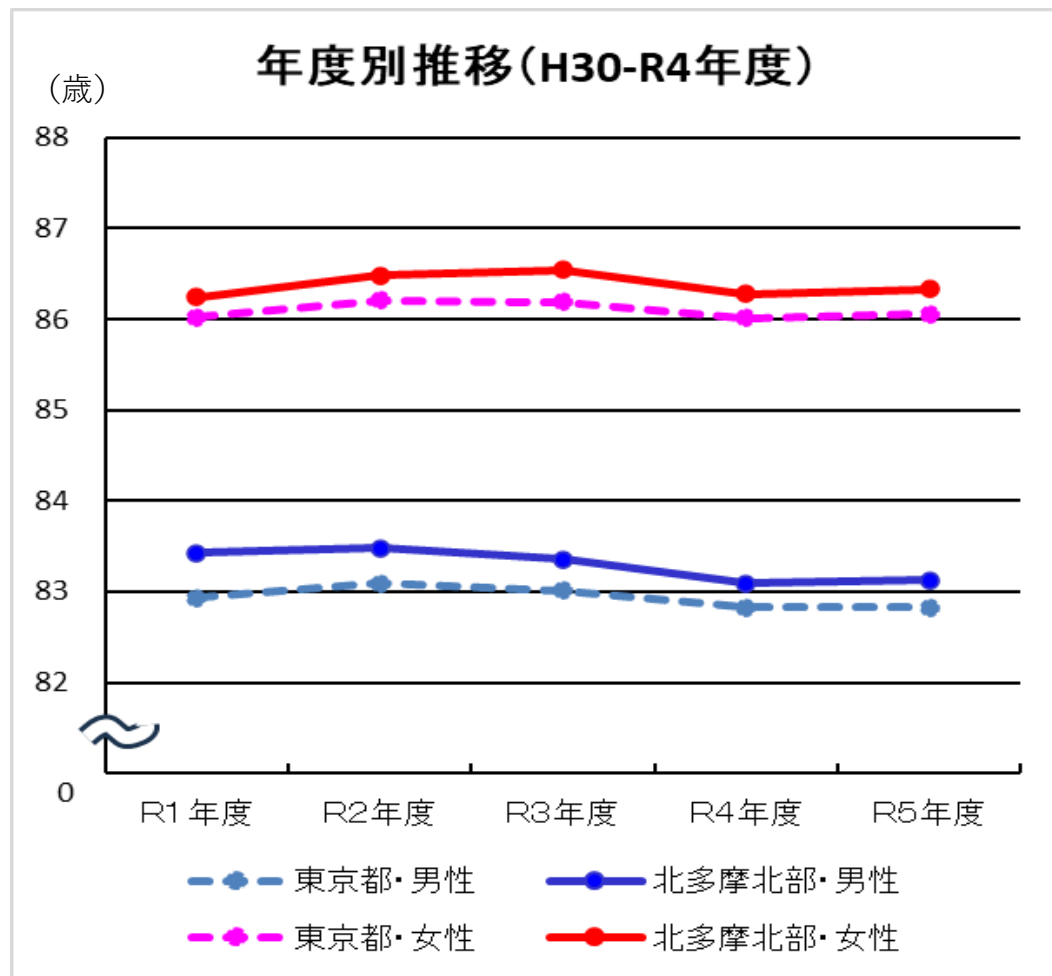


(注) 年齢調整死亡率とは、年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整し、そろえた死亡率。直接法とは、標準とする集団の人口構成と同一であると仮定した場合の仮の死亡率を計算して比較する方法。本データは、「平成27年モデル人口」を用いて算出

資料：「人口動態統計(未掲載資料)」(東京都保健医療局総務部総務課)

<参考> 65歳健康寿命A (東京都保健所長会方式)

65歳に達した人が「要介護2」以上の介護認定を受けるまでの期間を算出した65歳健康寿命Aは、男女とも東京都全体より高く、健康である期間が長い。



資料：東京都保健医療局保健政策部健康推進課調べ